

**第2次千葉県生涯大学校マスタープラン(原案)及び  
千葉県生涯大学校設置管理条例の一部を改正する条例案に関する意見に提出された御意見と県の考え方について**

※いただいた御意見について、趣旨を損なわない範囲で要約させていただきました。  
また、同内容の御意見については、まとめさせていただきます。

区分	御意見の概要	県の考え方
園芸コースの見直しについての御意見	<p>○ 現在、園芸コースで学んでいる者です。新しいマスタープランでは園芸まちづくりコースになり、修業期間が1年から2年になるとのことで大いに期待しています。平成31年にできれば再度入学し、園芸まちづくりを学んでみたいです。我々高齢者が生き生きと活動するためにこの生涯大学は大変役立っています。自由にいろいろな可能性にチャレンジできるようぜひ再入学ができる生涯大学であってほしいと願います。御検討をよろしく願います。</p>	<p>地域における実習講座の更なる充実や、より体系的な学習環境の提供など、地域活動につながる十分な知識・技術を習得できるようにするため、今回、園芸コースの修業年限を2年間に延長することとしたものです。</p> <p>今後いただいた御意見を参考としながら、魅力ある生涯大学校とするよう、取り組んでまいります。</p>
	<p>○ マスタープランで、園芸コースを2年制に拡充して園芸まちづくりコースへの見直しを歓迎します。属する卒業生団体の指導的な役割を園芸出身者が果たしていましたが、前改訂で1年制になったため、地域活動学部を経ないと、入学資格が得られなくなり、ごく少数の応募者に陥っていました。優秀な人材の確保のためにも、2年制への移行を大いに歓迎いたします。2年制は30年入学者にも適用していただきますよう、希望します。</p>	
	<p>○ 名称を「園芸まちづくりコース」に改称することには反対である。行政が行う事業だから「地域活動に参加させたい意図」が見え見えである。個人的な趣味の範疇に近いものだから公金は出せないというのは納得いかない。公金は、元を正せば我々の血税であり、県民の心豊かな老後のためにも使われるべきものとする。「ボランティア活動などで社会に貢献、恩返ししないものには公金は出せないから、せめて名称にまちづくりを追加する」ではなく、自らボランティアなどに目が向く教育課程の編成から始めるべきである。</p>	
定員の見直しについての御意見	<p>○ 部分的に2年制にする意味は何か。技術の習得が不十分は初めからわかっていたことではないのか。人員については園芸も陶芸も2年制にして人員は今のままにしてはどうか。陶芸は生涯大学で数年学んだ技術をもとにさらに地域の自主的な陶芸教室などに所属しながら作品のバザーなどを通して地域貢献をしているのを見かける。また、地域の学校で陶芸教室をやっているのを見る。</p> <p>生涯大学は地域貢献をしなければならないことを前提にすることがおかしいのではないか。高いスキルが身に着けば人は地域に役に立ちたいと思うものである。そういう教育をすることが本旨ではないか。</p>	<p>今回の定員の見直しについては、現行マスタープランで運用実績を踏まえ、学んだ知識・技術を地域活動に活かすことができるよう、また、クラスの適正規模や再入学者の状況なども考慮しながら行ったものです。</p> <p>なお、見直し実施後についても、卒業生の地域活動状況や、民間の生涯学習事業の展開状況、市町村における地域活動の担い手人材の育成状況など、県が果たすべき役割という視点から、引き続き、必要な検証・検討を行ってまいります。</p>
	<p>○ 陶芸の定員削減を止めてもらいたい。社会で活躍した高齢者の生きがいの場の門を狭くしてほしくはありません。もしできるなら枠を増やしていただきたい。すでに高齢者が街にあふれる時代が近づいています。多くの人にチャンス을ください。そうすれば社会貢献の質も量も大きくなります。</p>	
	<p>○ 入学希望者数の需要と供給面からの検討がなされていない。高齢化が進む中、定員の削減は時代に逆行するものと考えます。入学希望者を考慮した定員数の維持、増加、削減がニーズに対応している。</p>	
陶芸コースの2年制化を希望する御意見	<p>○ 週に2回通うのは正直言うとかなり厳しいです。2年制で週1度の通学なら行きたいという人はたくさんいます。</p>	<p>時間数に応じて技術が向上する陶芸コースについては、平成24年度の見直しの際に、学習の質を維持するため、授業時間数を園芸コースの2倍にする形で見直しを行い、修業年限を1年間としています。</p> <p>今回いただいた御意見も参考とし、今後も卒業生の地域活動状況を始めとした、様々な観点から検証するほか、関係者や社会福祉審議会などの意見も伺いながら、引き続き、必要な検証・検討を行ってまいります。</p>
	<p>○ 人口の点からいっても、千葉、東葛地域にカルチャーセンターが多く存在するのは当然で、記述のように多くは体験講座的なものにすぎないため、継続して講座を設けることに賛成。しかし、園芸コースに比べ、(地域活動)ニーズが低いからといって、知識だけでなく技術修得に時間がかかる陶芸を1年間で実施せず、2年間とし、2年目にユニバーサルデザインを作陶できるようにしてほしい。陶芸など芸術的なものを愛好する静的で落ち着いた性格の人材が生涯大学校で学ぶことによって、更に地域に有用な人材として育成される機会となると思う。</p>	
	<p>○ 高齢者のため、学ぶのも時間がかかり、週2回の1年間では過密です。週1回2年間が適当だと思います。また、学んだことをすぐに地域に活かすことが難しい。活かすための仕組みを作ることを検討していただきたい。</p>	
	<p>○ 造形学部陶芸コースの履修が1年では基本のみの習得しかできず、向上意欲のある人への配慮が欲しい。2年目以降は、基礎コースの1年目より授業料を高く設定しても継続して社会参加できる場の提供を望みたい。</p>	
	<p>○ 生涯大学は、仲間づくり、地域活動への貢献が基本だと思いますが、仲間づくりも技術向上も一年では時間が不足と思います。もう少しゆっくりの2年制を望みます。</p>	

**第2次千葉県生涯大学校マスタープラン(原案)及び  
千葉県生涯大学校設置管理条例の一部を改正する条例案に関する意見に提出された御意見と県の考え方について**

※いただいた御意見について、趣旨を損なわない範囲で要約し、取りまとめさせていただきました。  
また、同内容に御意見については、まとめさせていただきました。

区分	御意見の概要	県の考え方
再入学の廃止についての御意見	<p>○ 広く県民に学習機会を提供、という県の主旨はよく理解できますが、地域差もあります。陶芸をはじめ、興味も深まり、楽しく学べる環境にあることも事実です。再入学は続けて何回までという規定を設けてはどうでしょうか。定員オーバーの際の抽選は、再入学回数も考慮に入れてはどうでしょうか。</p>	<p>広く県民に学習機会を提供するという観点や、学んだ知識や技術を卒業後速やかに地域貢献に役立てるという趣旨から、第2次千葉県生涯大学校マスタープラン(原案)では、原則として、同一学部同一コースへの再入学を行わないこととしたところです。</p>
	<p>○ 再入学者が多いということは、必要とされてるということ。また初めての人が優先的に入学し、空いたところに再入学をしている状態なので、再入学を認めない理由がわからない。再入学を認めてほしい。ここに通って、家にこもらず、友達が増え、元気でいられたら医療費もかからない。医療費に使うなら、こういった施設に税金を使うべき。なので公の施設の見直し方針からもはずしてほしい。</p>	<p>この考え方を基本としながら、今回いただいた多くの御意見や社会福祉審議会等の意見も踏まえ、造形学部の再入学につきましても、必要な対応を検討していきます。</p>
	<p>○ 私は3年前に地域コーディネーターの認定を受け、現在、地域で陶芸の指導をしているが、必要とする知識の不足で再入学して勉強している。ぜひ再入学を認めてほしい。</p>	
	<p>○ 再入学は認めるべき。健康寿命を延ばすためにも、高齢者がより充実した生活を過ごせるよう、生涯学習の機会を、県政がさらに真剣に考えるべき。目先の利益にとられず、長期的に計画してほしい。</p>	
	<p>○ 高齢化社会の中で孤立を防ぐためにも、地域との結びつきはとても大切だと思います。意欲ある人が学べる場として再入学を認めて、初入学と再入学の入学金に少し差をつけるとかいい知恵をしぼってください。</p>	
	<p>○ 高齢化が進み、認知症予防のため、また、地域活性化のためにも学習意欲の高い高齢者に再入学を許可して、学ぶ機会を提供すべきであると考えます。入学に関しては、新規入学者を優先し、意欲のある再入学者にも学習の場を与えてほしいです。地方は都会と違い、学習しながら交流し、地域とふれあう機会が少ないのですから、再入学制度の廃止を改めて見直してほしいです。</p>	
	<p>○ 再入学禁止という制度が取り入れられてしまうのは、学ぶ意欲をそがれてしまうものであり、地域事情、個人事情等、それぞれが時間を見つけ学園に通う楽しみがなくなってしまう。中央にある学園、地方にある学園、それぞれなのに一律で決定してしまうのはどうかと思う。高齢者の社会参加を促すのであれば、もっとそれぞれの意見を聞き、絶対に再入学を認めないなどと言わないでほしい。</p>	
	<p>○ 再入学を許可する基準を出来るだけ明確にして欲しいと思います。「学習内容の見直しが行われた場合など地域活動に寄与すると認められる場合」が今一つ分かりにくいです。</p>	
	<p>○ 広く県民に学習機会を提供したい、という県側の御意見はごもっともと考えますが、せっかく身に付けた技能が水泡と化してしまうのではないかと。地域に貢献したくても、貢献できる技能を身に着けることが絶対的に不可能と考えます。気概のない方は1年で終了します。そして多くの気概のある受講生は継続して技量を高めて、地域社会に貢献しようと考えています。ぜひ再入学の制限を弾力的に考えていただきたく、お願いします。</p>	
<p>○ 原則として再入学を廃止するのではなく、一次募集での応募は再入学者はできないが、二次募集での応募は可とするとしてほしい。</p>		

**第2次千葉県生涯大学校マスタープラン(原案)及び  
千葉県生涯大学校設置管理条例の一部を改正する条例案に関する意見に提出された御意見と県の考え方について**

※いただいた御意見について、趣旨を損なわない範囲で要約し、取りまとめさせていただきました。  
また、同内容の御意見については、まとめさせていただきました。

区分	御意見の概要	県の考え方
その他の御意見	○ 定年後の生きがいの場として生涯大学校は生き生きと生きる場が与えられている。毎年プランが変わるようで、もう少ししっかりとした教育の場や老人の生きる場として内容を出してほしい。切り捨て前提としているようで悲しい。	今回いただいた御意見も今後参考としながら、関係者の皆様の御意見と合わせ、魅力ある生涯大学校とするよう見直しを進めてまいります。
	○ 新入学生確保のため、教育部門が担っている生涯学習事業と連携を図り、入学資格の原則60歳以上の年齢制限を撤廃すべきではないか。高齢者福祉という狭い枠に囚われず、幅広い年齢の県民に学習機会を提供するという社会教育の観点も踏まえると、生涯大学校という一つの公の施設の中で福祉と教育が連携して生涯学習事業を推進することが大切で、より効率的・効果的な事業運営を図ることができる。	
	○ 東総・外房・南房地域では、民間のカルチャースクールや市町村が実施する市民大学等がほとんどなく学習の場がない地域においては、県が主体となって生涯学習の場を設置すべきである。	
	○ 広報活動を積極的にして、地域活動の実態をより多くの人に知ってもらう必要がある	
	○ 市の老人大学は自身が楽しむ内容に特化されており、ボランティア等の主導的な人材育成は成しえない。(市町村の高齢者大学を経験) 県の想像をはるかに超える卒業生が地域貢献に携わっており、生大があるが故を考えれば、その継続は老々ボランティア時代に向け、極めて重要であると考えます。	
	○ 高齢者の生きがい・健康・仲間づくりで高齢者自らの健康維持、介護予防に寄与できる大学の運営・活動が望ましい。それに付随して地域活動推進にも寄与出来れば副次的な効果もあり、より望まれる大学が目指せると考えます。	
	○ 先日、生涯大学校や学園のクラブ活動について他県の方に話したところ、公立の学びの場があり「羨ましい」と言われた。金持ちでもない千葉県は40年以上生涯大学校を維持してきたのです。この成果は、本県の豊かな自然と産業などとのバランスある発展の下支えになったと思います。だからこそ、向学心や公共心・健康づくりに意欲を持った学生を育て、途中退学続出といったことが起きない「魅力」が学校に必要である。	
○ 学園まで時間とお金をかけて何年も通学しているが、金銭面、体力面、時間面で言えば近所のカルチャー教室へ行った方がはるかに楽です。なぜ大学に通い続けているか。それはカルチャー教室ではないからです。ここから巣立った方たちの多くが、各地のカルチャー教室で活躍されています。(見直しにより) 魅力がなくなり、定員割れその他問題が出てきたように推測しています。 なぜこのような方向になったかは解りませんが、今の県の考え方は、生涯大学校を段階的に縮小し、いずれは廃校という前提で物事を進めているとしか思えない。制度変更が事業を向上させるのではなく、下降させることを意図した変更にしかみえないからです。特に陶芸コースに関してはカルチャー教室でも出来ることを、税金を使って開催するのは疑問といった、考え方に基づいているのではと推測しています。		

**第2次千葉県生涯大学校マスタープラン(原案)及び  
千葉県生涯大学校設置管理条例の一部を改正する条例案に関する意見に提出された御意見と県の考え方について**

※いただいた御意見について、趣旨を損なわない範囲で要約し、取りまとめさせていただきました。  
また、同内容の御意見については、まとめさせていただきました。

区分	原案の記述	左記に対する御意見の概要	県の考え方
記述に対する御意見	(P1: 本文17行目) ○ また、「2020年東京オリンピック・パラリンピック」では、本県でも一部の競技が開催されます。そのため、観光客に県の魅力を伝える役割を担うボランティア人材の確保が求められています。	○ 2020年のオリパラをターゲットとした書き方になっているが、高齢者の経験を活かすような書き方とした方がよい。	いただきました御意見を参考に、本文を修正の上、第2次千葉県生涯大学校マスタープランを策定いたします。
	(P1: 本文最終行) ○ 地域活動に参加することによる生きがいの高揚につながることを目指しています。	○ 「学習成果を活かした地域活動に参加することの生きがいの創出、充実」とした方がよい。	
	(P4: 表中「地域の活性化等」) ○ 地域独自の祭りや催事の企画、運営あるいは観光ボランティアガイド等を行い、地域の活性化を図るプロデューサーとして活躍できる人材	○ 地域活性化に必要な最大事項は「共助社会の構築」ではないだろうか。したがって以下のようにしてはどうか。 「・・・ボランティアガイドなどとともに共助による地域の活性化・・・」	
	(P8: (1)【現状と課題】本文2行目) ○ 生涯大学校への入学時は、地域活動の経験がない人が約半数を占めていますが、卒業後は、多くの高齢者等が地域活動を実施しています。地域活動への参加について、生涯大学校の卒業生からは、「学校へ通い、学習していくうちに自然と地域活動への意欲が湧き、卒業後に活動を始めた」という声が多数聞かれます。	○ 5行目中ほどの「地域活動を実施」は「地域活動を実践」のほうが良いのでは。  ○ 【現状と課題】となっているので文末に以下を付記してはどうか。 「今後さらに地域活動への参加をどのように増やすかが求められています。」	
	(P8: (2)【現状と課題】本文6行目) ○ また、2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることになり、本県でも一部の競技が開催される予定であることから、ボランティア人材の育成が急務となっています。	○ オリパラが強調されすぎている。 ○ 生涯大はオリンピックの養成機関ではない ○ オリンピックのボランティアは義務付けではなく自発的に参加するもの	
	(P9: 5行目) ○ さらに、東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、より多くの在学生在がボランティアとして参加できるようカリキュラムの充実を図ります。	○ 生涯大の学生の中には、現役時代に海外勤務を経験し、語学に堪能な者も多数いることから、正規の授業ではなく、特別授業を設けるのもよい。	
	(P9: (3)【現状と課題】本文7~8行目) ○ グループになじめなかった場合は退学につながるケースや、「グループ以外の人と話す機会がなかった」という声もよく聞かれます。	○ 【現状と課題】となっているので文末に以下を付記しては「・・・よく聞かれることからより工夫していくことが求められています。」  ○ 「グループ以外の人と話す機会がなかった」という表現が適切でない。	
	(P9: (3)【今後の方向性】本文1行目~) ○ 今後は、演習や実習の活動単位となるグループについては、出身地域ごとに編成することを基本としつつ、交流を活発化するため、グループを定期的に再編成し、より多くの仲間との交流機会を設けます。	○ 仲間づくりのためには、頻繁にグループを変えるのも問題があり、少なくとも1年間は変えるべきでない。いずれにしても一長一短があるので、大学当局に任せるべき。  ○ 「グループについては教務や講師の意見も聞きながら」に変えるべき。学生の中にもいろいろな意見があり、グループの組み方について学生間で議論になってしまう。	
(P11: ②造形学部【現状と課題】本文11行目) ○ 一方で、陶芸コースにおいては、市町村社会福祉協議会に対象に実施した調査において、陶芸の技術を活かした地域活動ニーズはあるものの園芸と比較すると割合が低いといった状況があります。	○ 「陶芸の技術を活かした地域活動ニーズはあるものの、・・・低い」の記述は、モチベーション低下を招く。 ○ 陶芸の技術を活かした地域活動ニーズが園芸と比べ割合が低いとあるが、求められている活動場所が異なっていることから比較すべき性格のものではない。		

**第2次千葉県生涯大学校マスタープラン(原案)及び  
千葉県生涯大学校設置管理条例の一部を改正する条例案に関する意見に提出された御意見と県の考え方について**

※いただいた御意見について、趣旨を損なわない範囲で要約し、取りまとめさせていただきました。  
また、同内容の御意見については、まとめさせていただきました。

区分	原案の記述	左記に対するの概要御意見	県の考え方
記述に対する御意見	(P11 : ②造形学部【今後の方向性】本文5~6行目) ○ 街路樹や施設、公園の花壇管理といった 街の景観整備や、地域の高齢者宅の庭木の剪定、 <u>繁忙期の農家の手伝い</u> など、園芸の技術を活かした地域づくりに貢献できる人材を育成していきます。	○ 今更、泥だらけになる農業を高齢者に手伝わせるのは検討違いだと思う。特に繁忙期の農家にとっては、足手まといで迷惑になる。もし希望者があるなら、紹介だけにすべき。全員がボランティアをするために学校に行っているのではない。  ○ 現在、農家には繁忙期はない。高齢化のために田植え、稲の管理、稲刈りは委託されています。専業農家は違うと思いますが。該当箇所の文章は削除すべき。	いただきました御意見を参考に、本文を修正の上、第2次千葉県生涯大学校マスタープランを策定いたします。
	(P17 : (1)【今後の方向性】 本文1行目) ○ このような状況を踏まえ、全ての学園で、卒業生の組織化をさらに促進していきます。	○ 卒業生団体は生涯大学校の組織の一部ではなく、自主的自発的な団体であり、強制されるものではない。ましてや県は補助金も出さないのに口だけ出すのは筋違いである。	
	(P19 : 《連携の具体的な形》②) ○ 卒業生の組織を市町村ごとにグループ化し、グループがそれぞれの地域で活動できるような仕組みを推進します。	○ 「地域で活動できる仕組みを推進します」という表現について、自らグループを作る卒業生もいるので、もっと柔らかい表現とした方がよい。	
	(P19 : (3) のタイトル 及び 枠内) ○ (3) 大学等教育機関との連携 ◆県内にある大学等教育機関との連携強化	○ (3) 大学等教育研究機関との連携 ◆県内にある大学等の教育研究機関との連携強化とした方がよい。	
	(P20 : (3)【今後の方向性】 本文1行目~) ○ 学生に質の高いカリキュラムを提供するため、今後は、連携する大学の特性や状況を踏まえた講師の派遣や、大学生等との世代間交流の実施、公開講座への参加など多様な連携方策を取り入れることとします。また、少子化の影響で、高齢者向けの講座を開設している大学等も増加傾向にあることから、互いにメリットのある形での連携を進めます。	○ 「県には県立保健医療大学や農業大学校、衛生研究所やがんセンター研究所、農林総合研究センター、環境研究センター、博物館などの教育研究機関があります。これら専門性と地域性を兼ね備えた多彩な研究分野から講師を招いたり、共同研究に参加したりする機会を増加します。」を追加したらどうか。	
	(P26 《参考：各学部の学習内容(案)》)	○ 各学部の学習内容(案)の目的、備考欄について、それぞれ「自発的な」を入れていただきたい。 (健康・生活学部) ボランティア、 <u>自治会活動など自発的な社会参加</u> に (造形学部) <u>自発的な地域活動</u> に  ○ 「孤立死」と「孤独死」の言葉を統一すること。	